

第5章 リーディングプロジェクト



第5章 リーディングプロジェクト

本市の環境将来像である「人と自然が寄り添い 未来へ紡ぐ湖山の郷 かすみがうら」を実現するためには、市内に居住する人、市内で働く人、市内を訪れる人が、地球環境のことを考えて行動していくことが必要です。

リーディングプロジェクトとは、本計画を進めていく中で、全体を先導していく施策、すなわち、最も優先的に行うことで全体の取り組みを促進する施策として位置づけ、推進していくものです。

リーディングプロジェクトでは、取り組みの効果を確認・評価するために、環境指標を設定しました。環境指標は定期的に点検し、施策の取り組み内容の見直しなどに反映させていただきます。

1 「自然との共生へ！きれいなまちづくり」

生物多様性を育み、農林水産などの営みを支え、将来にわたってこの恵みを享受できるように、自然環境の維持と向上を進めます。

2 「よりよい環境へ！CO₂を減らそう」

きれいな空気や水、清潔で美しいまち並みを維持し、安心・安全な生活環境の保全を進めます。

3 「地域循環共生へ！SDGsを進めよう」

地球温暖化対策や4R、気候変動適応策を積極的に進め、地域循環共生圏の推進とカーボンニュートラル社会を実現していきます。

4 「環境保全推進へ！みんなで行う環境づくり」

私たち一人ひとりが環境への配慮や改善すべき行動をしていくことが求められています。環境の保全と創造に積極的に取り組んでいきます。

5 「気候変動適応へ！まちも人も備えよう」

世界的にも問題となっている、気候変動問題へ適応していくため、温室効果ガス排出の緩和と気候変動による影響に備えていきます。

第5章 リーディングプロジェクト

1 「自然との共生へ！きれいなまちづくり」プロジェクト

1 方針

- ・ 市内の自然環境について市民の皆様方へ情報を提供して共有します。
- ・ 気軽に環境学習や環境保全に参加できる協働活動を提供します。
- ・ 環境活動に継続参加が促進される仕組みを作ります。
- ・ 農林水産における市域の特産物を活用したイベントを促進します。

2 内容

- ・ 協働事業の推進（市民や事業者を取り込んだ環境保全活動※）

※里山保全や水辺保全、自然観察会など幅広い活動

- ・ 環境に関する環境学習や研修会・講習会等の開催
- ・ 環境や地球温暖化、気候変動適応策等のさまざまな問題について普及・啓発

3 プロジェクトの効果

- ・ 市民や事業者の環境意識が向上し、環境保全に向けた取り組みが活発になります。
- ・ 協働活動に参加することで、さまざまな協働体による環境保全活動が広がります。
- ・ 環境学習や研修会・講習会を開催することで、環境に対する意識が高まります。

雪入ふれあいの里で水辺学習



【出典：筑波山地域ジオパーク推進協議会ホームページ より】

ハス田周辺の水路で小魚観察会



【出典：霞ヶ浦環境科学センターホームページ より】

第5章 リーディングプロジェクト

4 環境指標

環境指標	現 状 (R 4年度)	中間目標 (R 9年度)	計画目標 (R 14年度)
市が主体・共催となって開催する フォーラム等の件数	0件	2件	3件
現状	霞ヶ浦環境科学センターでの霞ヶ浦の環境フォーラム等へ協力していますが、市が主催するフォーラム等は開催していません。		
目標	今後は環境に優しい地域づくりに向けた勉強会や研究発表会、フォーラムを市が主体となって開催していきます。		
茨城県環境アドバイザー、 環境省環境カウンセラー登録数	0人	5人	10人
現状	市では現在、茨城県環境アドバイザーや環境省の環境カウンセラーなど、環境保全活動の指導員の登録数について把握していません。		
目標	市内で開催する様々な環境活動に対応するため、分野ごとの指導員の人材発掘と制度についての普及啓発を県などの関係機関と協力しながら、進めていきます。		
市内の環境に関する市民の意識 (市民アンケート)	94%	96%	98%
現状	市の環境に「関心がある、やや関心がある」と回答した割合が多くありました。		
目標	今後、さらに関心を持っていただけるように啓発を行っていきます。		
市内の環境に関する5年生の意識 (市民アンケート)	89%	94%	98%
現状	市の環境に「関心がある、やや関心がある」と回答した割合が多くなっています。		
目標	さらに関心を持っていただけるよう普及・啓発を行っていきます。		
環境施策の実現のためどの程度 協力をしていくか(事業者アンケート)	41.9%	50%	60%
現状	「積極的に協力したい」+「できれば協力したい」と回答した割合が41%です。		
目標	「協力したい」に移行する回答率を上げていくことを目指し、普及啓発を進めていきます。		

第5章 リーディングプロジェクト

2 「よりよい環境へ！CO₂を減らそう」プロジェクト

1 方針

- ・ 活動拠点の機能の充実を図ります。
- ・ 若い世代や流域市町村を取り込める魅力ある活動を提供します。

2 内容

- ・ イベントやフォーラムの開催（環境団体や企業からの助成金等を活用）
- ・ エコドライブやエコカーの導入、フードロスの削減、自然の力を利用した省エネ対策など地球温暖化対策全般の推進
- ・ 学生（小学生、中学生、高校生、大学生）による保全活動の推進
- ・ 流域市町村への取り組みのPR及び参加の促進

3 プロジェクトの効果

- ・ 地球温暖化防止活動の推進によって市民意識の向上と理解が深まります。
- ・ ゼロカーボンシティの実現に向けて自治体・企業・市民が一体となって進めていくことができます。
- ・ 若い世代が活動することで、市民団体の新たな力になり、さらには、活動を受け継ぐリーダーの育成にもつながります。
- ・ CO₂の見える化が活用され、CO₂排出量削減に向けた取り組みにつながります。

4 環境指標

環境指標	現 状 (R 4年度)	中間目標 (R 9年度)	計画目標 (R 14年度)
市内の地球温暖化防止活動推進員の登録数	6人	8人	10人
現状	茨城県より委嘱を受け、温暖化防止に係る普及啓発活動を行っている地球温暖化防止活動推進員として6名の方に活動いただいています。		
目標	今後、県や関係団体と協力しながら、普及啓発を進め、地球温暖化防止活動推進員として活動いただける方を増やしていくことを推進し、CO ₂ を減らしていく行動を進めていきます。		
市民1人あたりの家庭ごみの排出量	723g/日	現状より減	現状より減
現状	1日1人あたりのごみ排出量723g/日（R3年度）は全国平均を上回っています。		
目標	ごみの排出量を段階的に減量化していくことを推進していきます。		
CO ₂ の見える化活用件数（累積）	0件	20件	30件
現状	現在、市では実施していません。		
目標	CO ₂ チェックツール（うちエコ診断、環境家計簿等）を提供し、うちエコ診断の受診家庭を増やし、家庭におけるCO ₂ 排出量や削減量の見える化（数値把握）の活用件数の増加を目指し、普及啓発を推進していきます。		

第5章 リーディングプロジェクト

3 「地域循環共生へ！SDGsを進めよう」プロジェクト

1 方針

- ・ 市民・事業者のSDGsに関する意識啓発を強化します。
- ・ SDGs目標達成年となる令和32（2030）年へ向けた行動を進めます。

2 内容

- ・ 地産地消と資源循環の情報を提供
- ・ 汚水処理人口普及率の向上
- ・ 環境保護や自然環境の維持等の行動へ自治体と市民が協働するまちづくり
- ・ 学校(小学生・中学生)へSDGsの意識付け
- ・ 食べ残しによるフードロスを減らす取り組み

3 プロジェクトの効果

- ・ SDGsという広い分野のターゲットに位置づけられる市民行動の変容

4 環境指標

環境指標	現 状 (R4年度)	中間目標 (R9年度)	計画目標 (R14年度)
汚水処理人口普及率	93.9%	94.7%	95.1%

現状 汚水処理人口普及率は、93.9%です。

目標 公共下水道及び農業集落排水処理区域内における接続と合併処理浄化槽（高度処理型）の設置についても併せて推進します。

気候変動の認識の拡充と適応策の地域協力	57%	80%	100%
---------------------	-----	-----	------

現状 気候変動という言葉と認識について市民（保護者も含む）から、知っているという回答が57%となっています。

目標 気候変動による影響を抑えていくためには個々の行動が重要であることから、認知度を上げていくことを進めます。

第5章 リーディングプロジェクト

4 「環境保全推進へ！みんなで行う環境づくり」プロジェクト

1 方針

- ・ 環境保全に向けた人づくり・環境づくりを進めます。
- ・ 環境活動を通じて暮らし方がよくなる事業を広めます。

2 内容

- ・ 水の利用や水循環に関する情報提供
- ・ 里山整備の推進
- ・ 農薬及び肥料の適正使用など環境保全型農業の推進
- ・ 畜産業、養殖業における環境負荷対策の推進
- ・ 河川河口域における窒素・りん除去対策の推進（水生植物の管理など）
- ・ 公共交通機関等の利用促進

3 プロジェクトの効果

- ・ 水の利用や水循環などについて理解が深まり、市民の今後の取り組みにつながります。
- ・ 里山の整備が進み、水源涵養効果の向上や CO₂ の吸収源となる緑の保全が図られます。
- ・ 環境保全型農業が進み、農地からの流出水及び農業排水の負荷低減が図られます。
- ・ 畜産系排水の負荷低減、養殖業における環境負荷低減が図られます。
- ・ エコドライブやエコカー導入、フードロス削減、省エネ対策など、地球温暖化対策全般について、普及啓発が図られます。
- ・ 路線バス、広域路線バス及びデマンド型乗合タクシー等の既存公共交通機関の利用促進が図られます。

4 環境指標

環境指標	現 状 (R 4年度)	中間目標 (R 9年度)	計画目標 (R 14年度)
マース MaaSやグリーンスローモビリティ [※] などの 新技術の実証実験数	0件	1件	2件

現状

マース
MaaS（バス、電車、タクシー、シェアサイクルといったあらゆる公共交通機関を対象に、IT を用いてシームレスに結びつけ、人々が効率よく、かつ便利に使えるようにするシステム）導入の可能性について検討しています。

目標

マース
MaaSをはじめ、自動運転やグリーンスローモビリティの実証実験を実施し、利用しやすい交通体系の構築により、公共交通機関の利用を促進します。

第5章 リーディングプロジェクト

5 「気候変動適応へ！まちも人も備えよう」プロジェクト

1 方針

- ・ ゼロカーボンシティ宣言を行い、温室効果ガス排出の緩和に貢献します。
- ・ 市域の気候非常事態宣言を行い、気候変動による影響に備えます。

2 内容

- ・ 気候変動に適応する地域づくり
- ・ 気候変動に適応できる公共施設づくり
- ・ 気候変動に適応する防災計画の推進
- ・ 気候変動に適応する産業振興の推進

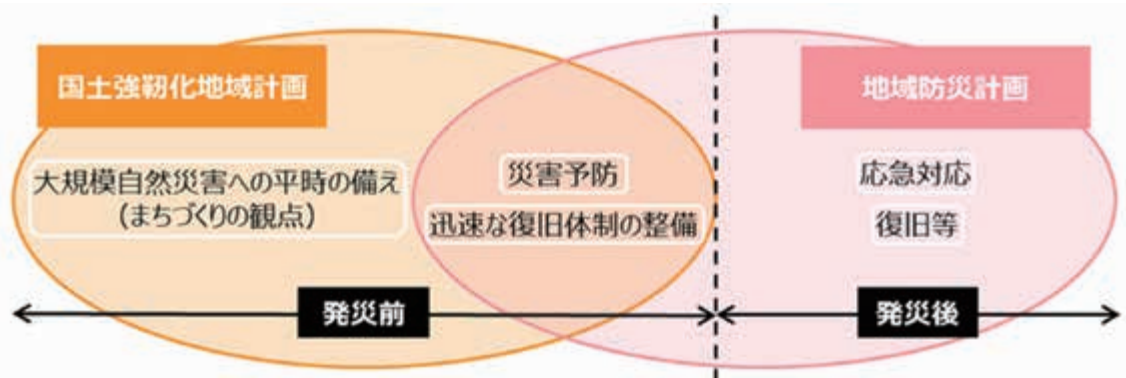
3 プロジェクトの効果

- ・ 気候変動への適応を考慮する事で「まち」の機能が向上します。
- ・ 自立分散型エネルギー※を公共施設に設備（ZEB※化）し、自家消費する事で避難や防災拠点として活用します。
- ・ 想定外の災害を無くし、確実な避難を計画・訓練する事で、安全で安心できる「まち」の暮らしが実現します。
- ・ 適応する事業者を増やす事は地域経済のレジリエンスにつながります。

4 環境指標

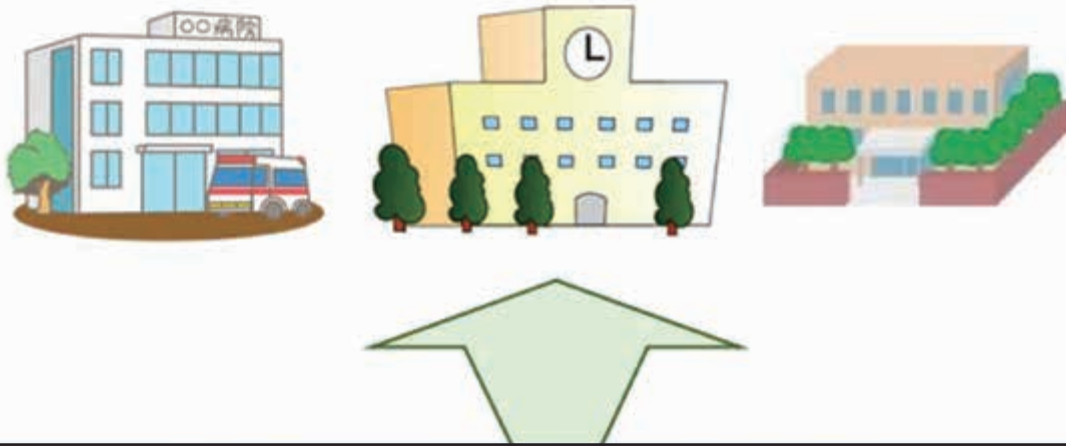
環境指標	現 状 (R4年度)	中間目標 (R9年度)	計画目標 (R14年度)
公共施設の防災 ZEB 化	0件	1件	3件
現状	公共施設においても太陽光発電を行っていますが自家消費が少ない状況です。		
目標	公共施設に自立分散型のエネルギーシステムを段階的に増やし、防災力を向上させていきます。		
防災訓練の実施	1件	1件	1件
現状	防災訓練を年間1回行っています。		
目標	市が実施する防災訓練に合わせて、地区の避難訓練を実施し、安全で安心な避難形態を確立します。		

第5章 リーディングプロジェクト



【出典：かすみがうら市国土強靱化地域計画（令和3年3月）より】

公共施設等



地域のレジリエンス強化・脱炭素化

①再可能エネルギー設備・未利用エネルギー設備・コジェネレーション



②蓄エネ設備



③省エネ設備等



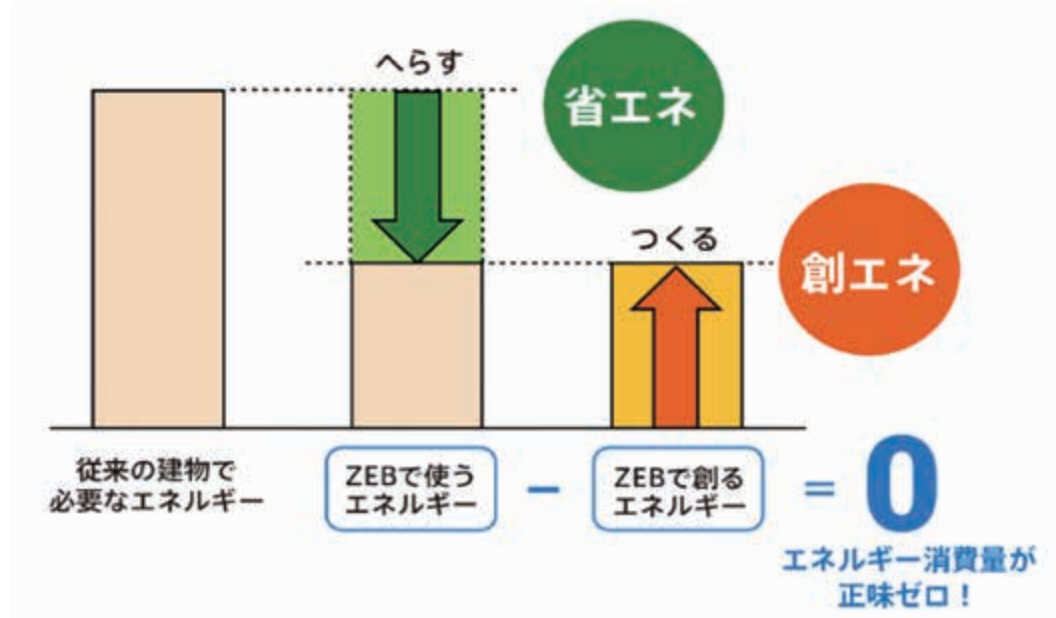
【出典：環境省 より】

第5章 リーディングプロジェクト

コラム

「ZEB」とは

Net Zero Energy Building (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル) の略称です。快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物のことです。



【出典：ZEBとは 環境省ホームページ より】